【総括表】

用途	産業体験施設

1　対象施設

本個別施設計画での対象施設は、次に示す施設とする。

	施設名	所在地	基本的な方針	摘要
1	稲武どんぐり工房	武節町	現状維持	
2	里山くらし体験館	新盛町	現状維持	

2　計画期間

2021 年度から 2026 年度までの 6 年間とする。

3　目標使用年数

原則、目標使用年数は 57 年以上とする。

4　対策の優先順位の考え方

当該施設は、産業体験の場として多くの利用者が利用している。利用者のニーズに応えるための対策は、費用対効果を踏まえて検討する。

なお、対策の実施にあたっては、施設の劣化状況や点検・診断結果等を踏まえ、財政負担の平準化等も考慮しながら、計画的に行うものとする

【個別表】

1	施設名	稲武どんぐり工房

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	武節町	延床面積	282.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
稲武どんぐり工房	W 造	2005	282.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
稲武どんぐり工房は建築後１４年を経過（明治１２年建築の古民家を移築）し、経年による老朽化が著しい。産業体験施設としての、市内外からの利用者も多い。 今までに大規模な改修は行っていないが、指定管理者と連携して機能維持のための管理は今後も必要である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。 点検結果、耐用年数を踏まえた適正な修繕により安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズに対応していくため、施設更新に伴い多目的な利用を可能とすることで、利便性の向上を図り、施設の有効活用に努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
（現在の導入状況） 指定管理者により、施設の維持管理及び運営が行われている。 （今後の考え） 指定管理者による効率的かつ効果的な施設運営に努めるとともに、利用者ニーズへの柔軟な対応やコスト削減を図る。

	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	ユニバーサルデザイン・バリアフリー化への対応や利用者ニーズに応じた機能への改修など、費用対効果を踏まえた上で、施設としての利便性向上に努める。 設備の更新にあたっては、省エネ効果の高い照明のＬＥＤ化など、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく、維持管理を含めた費用（ランニングコスト）の縮減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

2	施設名	里山くらし体験館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	新盛町	延床面積	263,71 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
本館	W 造	2011	263.71	２階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
里山くらし体験館は薪ボイラーや薪ストーブ、太陽光発電を導入した施設。建築後８年を経過し、軽易修繕及び経年劣化が少しずつだが生じている。２０１８年に建物まわりの水路修繕を行った。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。 点検結果、耐用年数を踏まえた適正な修繕により安全性を確保する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
（現在の導入状況） ２０１９年より指定管理者の運営となり、施設の維持管理が行われている。 都市と山村地域等の交流事業の実施や施設 PR 等の実施により、施設利用者の増加を図っている。また、交流事業など地域活性化の取組を、山村地域等へ波及できるよう取り組んでいる。

	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	ユニバーサルデザイン・バリアフリー化に関しては手摺の設置や床のフラット化等、部分的に対応している。田舎暮らしを体験することが目的の施設であるため、現状の維持管理に努める。 利用者ニーズに応じた機能への改修などについては、費用対効果を踏まえた上で、施設の設置目的に合った利便性向上に努める。 薪ボイラーや薪ストーブに使用する薪について、市の景観伐採事業で出た木材（廃材）を利用することでコストカットにつなげる。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。